7/16 朝日

「共謀罪」地域分断を案じる

無職　（兵庫県　81）

年1回、近くの駐在所の警察官が各戸を訪問し、住居者の転出入や世帯構成の変化の有無などを確認し、同時に近隣で起きた事件や事故、悪質な詐欺事件の傾向などに対して警戒を促していかれる。その労を多とする。

少々プライバシーにも立ち入る公務ではあるが、とくに年配者にとっては多少私的な情報をも共有してもらうのは緊急時のためにも心強いし、地域の安全・安心にもつながることを期待している。今回訪問された警察官の方の丁寧な忠告にも感謝申し上げた。

その去り際、ふと先日施行された「共謀罪」法を想起し、警察の業務が増えたことにふれ労をねぎらった。警察官は笑みをもらし、「そうなんです。どうなりますかね」と言葉を濁したが、我々一般人と同様、法令実施の現実的なケースの認識は難しい問題ではないかと改めて想像した。

表面的にはなごやかに言葉を交わしながらも、今後、監視する側、される側に分断されないのか、将来どんな現実が待ち受けているのか、我が少年時代の悪法に照らし、今後を深く案じるのである。